

勝利を得るもの

黙示録 3:7～13

フィラデルフィアの教会

フィラデルフィアの教会は、7つの教会の中でもスミルナの教会とともに、イエス様が賞賛の言葉だけを書き記した教会のひとつです。すべてを見抜いておられ、すべてを知っておられるイエス様が「責めるところがない」といわれているということは、何という素晴らしい教会でしょうか。私たちは人生の中で様々な勝ち負けが出てきます。人間の世界ではある程度の勝ち負けはありますが、人間は悪魔に絶対に勝つことができません。それは、人間の知恵や能力より悪魔のほうがずっと強いからです。なぜなら、もともと神様が造られた悪魔は、悪魔ではなかったからです。ルシファーと言われて、明けの明星のように輝く存在でした。ところが、自分も神様のようにになりたいという傲慢によって、神様にさばかれ悪魔になったのです。そして、神様はこの地上を治める権利をアダムとエバに与えましたが、罪を犯したために、その地上の権利を悪魔が奪ってしまったのです。この2000年の教会の歴史において、悪魔は思う存分に教会を仲たがいさせ、分裂させ、人々の信仰を薄め、クリスチャンであるにもかかわらずクリスチャンではないような生活に私たちが陥っていくようにしました。私たちはこの悪魔との対決に勝っていかなければなりません。

聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方

『また、フィラデルフィアにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。』(黙示録 3:7)

I. 神への3つの確信～勝利ある者となる為に～

ここで、3つの特徴を持った究極の勝利者、絶対の勝利者が登場します。

- ①「聖なる方」(カドーシュ：ヘブル語)…これは、あらゆるものをはるかに越えているお方、超絶なお方という意味です。八百万の神々ではなく、それらをはるかに越えた、まことの生きた神様なのです。
- ②「真実な方」…裏表がないということです。この言葉には私たちに對しての大切な3つの約束があります。

(1番目の約束) 自分の罪を告白し、認め、悔い改める。真実な神様はその罪を赦して下さるお方です
(2番目の約束) 真実な神様は人生の試練の時に逃れる道をも備えてくださる。逃れる道とは脇道にそれる道ではなく、「真っ向から敵と向かってそこを突き抜いていく」という意味があります。私達は試練と思えるような時にも敵の中を突き抜けることができます。
(3番目の約束) 真実な神様は、私たちの霊と心と体を完全に聖くしてくださる。この地上でクリスチャンとして生活するとき、純粋に聖く全うすることは困難なこともあります。ですが、真実な神様は私たちを完全に聖くしてくださると聖書に約束されています。

- ③「ダビデのかぎを持っている方」…昔イスラエルの町は外敵から守るために城壁に囲まれていました。そして、ダビデの門には一定の時間以外は鍵が掛かっていました。ダビデの大国の鍵を持っているということは、すべてのことを管理する、治め統括する権威を持っているということです。私達も人生のいろいろな戦いの中で生きたまことの神様に目を向け続けることが大切です。世の中の事情や境遇、変化を見ると、私達も動かされ、惑い、迷います。パウロはローマ書8章で、「もし神が味方であるなら、神は全能なお方だから私達の味方になってくださる。私達を守って敵なし。」と言っています。私達が生きた絶対的勝利者なるお方に目を向けるなら、盤石の体制で戦いに臨むことができ、悪魔との闘いにおいて絶対に勝つのです。

II. あなたには少しばかりの力がある～勝利ある者となる為に～

『わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである』(黙示録 3:8)
私達は神様と比べると力がないものです。しかし、どれほど力がないと思っても神様と一緒に戦うときに、力がないものでも力があるものになります。私達は自己中心や傲慢な心から、神様

から与えられた力を自分の力だと勘違いし、神様の栄光を自分のものにしてしまいます。私たちが祈ってその病が癒されたなら、病を癒したのは神様です。しかし、私たちは「自分はすごい」となってしまいます。これでは、神様の栄光を横取りしてしまうことになります。ですから、自分は0%、キリストが100%になることが大切です。

『私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。』(ガラテヤ 2:20)

私たちがどれだけの力を持っているかはイエス様にとって問題になりません。なぜなら、神様から見れば、私たちは小さい力を持っているだけだからです。しかし、その少しばかりの力には、素晴らしい価値と有効性があります。フィラデルフィアの教会が少しばかりの力を最大限に用いたその姿を、神様は喜ばれ、賞賛されたのです。

III 勝利を得る者～勝利ある者となる為に～

では、フィラデルフィアの教会はどうして勝利を得ることができたのでしょうか。それは、開かれた門を有効に用いたからです。神様が与えた門には、三つの門があります。

- ①「信仰の門」…真の神様ではない他の神様を信じていた者を、神様はイエス・キリストを通して真の信仰へと繋がる門を開いてくださいました。本当の信仰は恵みと一緒に働きます。信じるということは、しがみつくのではなく、手放して全部寄りかかるとことです。他の宗教にはみられないことです。イエス様の信仰は、全部私にまかせなさいと言っており、私たちは母の腕の中にいる赤ちゃんのようなものです。フィラデルフィアの教会は、わずかしき力はありませんでしたが、不平を言わず、最大限に力を用いたことで真の信仰の門が開かれました。すべてをゆだねて、イエス様とともに生きたのです。
- ②「働き」の門…パウロはクリスチャンを迫害していましたが、イエス様と出会って変えられ、たくさんの人々に伝道するようになりました。働きの門が開かれ、それまではユダヤ人だけに伝えられていた福音が、異邦人への広がったのです。
- ③「天の門」…私たちは地上においてやがて命を終えます。肉体的な死を迎えなければならないのです。しかし、私達には天の門が開かれます。イエス様は蘇られたお方、いのちあるお方、限りない永遠のいのちを保証してくださるお方です。これは大きな希望です。この方と共に戦うので、私達は勝利者になれるのです。

終わりに…

フィラデルフィア教会はわずかな力を最大限に使って主に使えました。イエス様はそれを褒められたのです。

自分の存在を卑下し比較し、自分に与えられたわずかな力を使おうとしない。また或いは自分の力やこの世のものに頼り、自分の手柄にするような高慢な心。それらは全てイエス様を見下しているのです。

自分の中に、イエス様を見下している心がないでしょうか。見直さないといけないところはないでしょうか。

究極なる勝利者であり、聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っておられる方を信じるなら、私達は迷いません。恐ろなければ、どんなことがあっても大丈夫です。病気になったり、苦境が起こったとしても、神様はあらゆるものをはるかに超えて、最もよいことを持ち出してくださるお方だからです。その方のいのちがけの十字架の御業で救われた私達は究極の勝利者なのです。

その方に信頼して歩み、勝利を得る者となりますように。主の御名によって祝福します。

(要約者：河島 弘子)

(2021年11月14日)